

社団法人 山形青年会議所 「アクティブバランス都市山形実現に向けての提言」

山形 J C アクション21 ～スタンダード オブ YAMAGATA～

第1章 総 論

第1節 山形 J C が目指すまち ～アクティブバランス都市山形～

21世紀を迎え、私たち、社団法人山形青年会議所は、「アクティブバランス都市山形」を実現する運動を展開します。

20世紀の日本、とりわけ戦後のまちづくりは、施設や交通網そして住宅といった社会基盤整備（ハード面）に重点がおかれしました。その結果、国民の努力による高度経済成長も伴い生活水準は飛躍的に向上し、「物の豊かさ」が実感できる今日となりましたことは周知の事実です。その反面、自然環境が破壊され、限りある資源の使い方を見直し、ごみ等の廃棄物排出の抑制とリサイクルの促進などの対応策が必要な地球環境問題が発生しました。

また、近年凶悪犯罪の低年齢化や学校におけるいじめの増加などでもわかるように、「物の豊かさ」＝「こころの豊かさ」とは必ずしもなっていないのが現状です。“まちづくりは人づくりから、人づくりは教育から”といわれる様に次代を担う子供たちの健全なこころの育成（ソフト面）が今まで以上に必要とされています。

私たち山形 J C は、21世紀のまちとは、まち全体を見た抽象的な意味では構造（ハード）と人のこころ（ソフト）が、個々の事例を見た具体的な意味では消費と再生産、経済活動と余暇、民間と行政といった様々な項目に於いて、バランスのとれた都市が理想と考えます。さらに、その実現に向け市民一人、ひとりがアクティブ（積極的、活動的、能動的）に行動を起こす必要があると考えます。私たちは、このような市民が住む理想のまち「アクティブバランス都市山形」を目指し、運動を展開してまいります。

第2節 山形 J C メンバーのあるべき姿 ～新山形創造エンジン～

アクティブバランス都市山形を目指すにあたり私たち山形 J C メンバーはどの様に行動すればよいのでしょうか。それを車に例えて一言で表すならば、原動力＝「エンジン」であり、I T 革命時代の今日に於いては検索機関＝「サーチエンジン」です。

つまり、新しい山形を創造するエンジン「新山形創造エンジン」です。市民に働きかけ共に動く、さらに N P O 団体、行政に働きかけ共に動くことが、山形 J C メンバーの目指すべきそしてあるべき姿です。常に若者らしい好奇心を持って先駆的に運動に取り組み、また、多くの専門機関や N P O 団体との連絡役として有機的に連携し協力することで、時代の流れや環境全体を俯瞰しながらも、時には専門的に深く運動を進めていきます。

第3節 山形J Cの事業展開における基本姿勢 ～温故知新と新たな事業の創造～

21世紀、ニューミレニアムの始まりを迎えた私たちは、これからの新しい事業を考え展開する際、あえて「温故知新」という基本姿勢でのぞみます。

山形J Cの歴史、それは、その時代に入会し時に笑い、時に泣き、そして奮闘してきたメンバー全員の記録であるといえます。また、この歴史は市民や社会に向けた山形J Cの一つのメッセージであり、あるいは市民や社会の評価を受ける歩みともいえます。

古きを温め、新しきを知る まさに「温故知新」です。

新しい世紀、新しい年度を迎えたからといって全てを新しくする必要はないのです。時には、過去の事業の中で「アクティブバランス都市山形」実現に必要な事業や目的が達成されずに終わった良い事業は復活させることも必要であると考えます。

私たちは、山形J Cの歴史を振り返る時、そこに大きな誇りを見いだすことが出来ます。山形J Cメンバーの一員として、諸先輩方が築き上げた歴史に大いなる誇りを持ってこれからも事業を展開します。

第2章 過去のまちづくり事例の検証

第1節 過去のまちづくり事例の検証・山形J C

山形J Cの過去のまちづくり事例を検証します。

対象事業は1991年から2000年までの10年とし、別紙・概要シート（資料1）にまとめました。また、10年間のまちづくり事業の流れをフローチャート（資料2）として添付します。

【事業概要シートの活用】

この提言書をまとめるにあたり、思わぬハードルがありました。それは山形J C、N J Cアワード受賞事業問わず過去のまちづくり運動を概要としてまとめることでした。山形J Cでは各年代のJ Cレポートのみが参考資料となり、開始当初の事業計画しかなかったり、今回過去10年の事業に関しては、当時の、委員長経験者の方々のご協力を頂いて反省と評価という総括部分を埋めることが出来ました。また、N J Cも単年度制の弊害の為に2年前以上の資料は全て受賞LOMに返却されて資料がストックされていない状況です。今後、山形J Cに関しては、まちづくりのみならず全ての事業でこの事業概要シートを活用し、毎年事業年度末に委員長が総括として書き込み、これからも脈々と続き後世に残る山形J Cの歴史としてストックし、いつでも検索出来るようにすべきです。

第2節 過去のまちづくり事例の検証・N J Cアワード受賞事業

N J Cアワード受賞事業を検証します。

対象事業は、1996年から2000年までの5年とし、別紙・概要シート（資料3）にまとめました。ここでは敢えて検証結果を載せませんが、是非一度目を通していただき、私たち山形J Cの今後の活動の新たな方向性を見つけ出す参考にしていただきたいと思います。

第3章 新山形創造エンジンとして～質・実・剛・健～

第1節 「質」と「量」 ～クォリティーの追求と新価値創造～

21世紀の山形JCがバランスのとれた運動を展開するにあたり、事業の数＝「量」とのバランスを考えながらクォリティー＝「質」の高い運動を展開し、新しい価値を創造する必要があると考えます。

日本経済をはじめ世界経済のとりわけ企業の生産活動、サービス活動においても、今は言うまでもなく量から質の時代です。ただ物を作ればいい時代から質の高い製品、きめ細かなサービスを提供する時代となったのです。

それは、私たちのJC活動にも言える事ではないでしょうか。まだまだ奉仕団体やNPO団体の数は、社会のニーズに比べると少ないと言えるでしょう。しかし、私たちの山形JCは46年間という長い歴史を持った団体です。これからは、「質」を考えながら事業の「量」を考えるべきでしょう。それにより私たちの目指す「アクティブバランス都市山形」も質の高い＝ハイクォリティーな「まち」となるはずです。

新しい価値を創造することは容易なことではありません。今、全国で注目されているエコマネーは、コミュニティの質を追及して活性化させるために生まれた新しい価値です。新しい価値とは時に既存の価値観を捨てることも必要となるでしょうが、クォリティー（質）の追求によって創造されていくものと考えます。

※エコマネー：人と人との信頼関係に基づくボランティア経済下の新価値体系貨幣

第2節 「実」と「継」 ～夢を目標に、目標を現実～

過去の山形JCまちづくり運動を検証してみると、実を結んだものとそうでないものがあるのがお解りだと思います。それは1年間という限られた時間の中で諸先輩方や私たちが精一杯活動を行った結果として分かれたものと思います。また、形は変われども当初の目的が引き継がれ進化している事業もあります。

「実」とは実を結ぶこと、つまり目的が達成された結果を言います。そのためには継続という時間＝「継」が必要です。1年で「実」を結ぶものもあれば、3年、5年、時には10年という「継」が必要な事業も当然あるはずです。JCの単年度制の弊害ともいえる「継」の短さを今考えてみる必要があると思います。

夢とは可能、不可能を問わず持つことは誰にでも出来ることです。しかし、夢を夢で終わらすのではなく、夢を現実（かたち）に変えるためには、夢を目標にすることから始まります。目標とは実現可能な夢と言い換える事が出来るでしょう。そして、目標を達成する為にはプロセスが必要です。そのプロセスを一つ一つクリアする為には時間が必要なのです。「質」の追求、さらに事業が大きくなればなるほどそして進化も含めた必要な「継」は長くなり、その結果、得られる「実」も大きくなるのではないのでしょうか。継続を常に考慮した事業計画が必要と考えます。

第3節 「剛」と「柔」 ～強い志と柔軟な発想～

ここで言う「剛」とは、力が強いという意味ではなく、強い意志、志を言います。それ

は、目的達成の為には何ものにも屈しない意志で、「実」を結ぶ為に必要な志です。

志とは、昔は武士の心、今は紳士をはじめ士の心ではないでしょうか。

当然いままでの事業活動を展開してきたメンバー一人、ひとりが持っていたことに違いないと思いますが、私たちが新山形創造エンジンとなってアクティブバランス都市山形を目指す為には、今まで以上に「剛」が必要と考えます。

夢を現実（かたち）に変えるために強い意志＝「剛」が必要です。

その反面、プロセス段階では柔軟な発想＝「柔」が必要であると考えます。時にそのプロセスに誤りが有った場合やより良い方法が見つかった場合は、すぐに改める柔軟な発想が必要です。「剛」と「柔」を兼ね備えた事業を展開すべきです。

第4節 「健」と「誠」 ～健やかさと誠実さ～

次代を担う後継者の育成は、企業をはじめどのような組織に於いても必要不可欠であり、地域社会やまちづくりを考えた場合も例外ではありません。ゆえに、山形J Cのまちづくり運動に於いても、次代を担う子供たちのこころとからだの健全なる育成事業は、今後ますます重要となるでしょう。その上に、現代に生きる全ての人々との健やかなふれあい事業も必要ではないかと考えます。

ここで言う「健」とは健やかな心を育むことをさしますが、これからは体にハンディを持った方々の支援活動を通じ、障害をもった方もこころはさらに健やかになる活動を展開すべきです。障害者も健常者も共に支えあって生きるまちを目指します。

さらに、少子高齢化に伴い、高齢者の方々とふれあい活動を再開し、将来は子供、高齢者、障害者、健常者を問わず皆がふれあえるこころの「健」にも力を入れるべきです。また、健やかさを育む事業にはそれを展開する私たちに誠実さ＝「誠」が必要です。「こころ」に対しては「心」：「まこと」が入っていなければ相手に通じず、そして相手も答えてくれないのです。「誠」のある「健」を展開していくべきです。

以上、過去のまちづくり事例の検証結果から今後、新山形創造エンジンとして必要と思われる視点を記しました。次章にはここまでを総合的にまとめ、さらにN J C「2000年代運動指針」、N J C「J Cアクションプラン21」と整合性を図りながら導き出される具体的な事柄を“山形J Cアクション21”として提案いたします。

第4章 山形J Cアクション21 ～スタンダード オブ YAMAGATA ～

2001年、21世紀の最初の年に、社団法人日本青年会議所は「J Cアクションプラン21」を発信いたしました。これは、昨年策定されたN J C「2000年代運動指針」での国家・地域・経済・国際の4つのビジョンで「個と公の調和のとれた、活力と知力あふれる成熟した社会の創造」を目指して活動する方針に基づいています。

そして、私たち社団法人山形青年会議所が昨年打ち出した「2000年代新運動指針」での「アクティブバランス都市山形」は「個と公のバランスのとれた、活力と知力そして行動力あふれる成熟したまち・山形」と言い換えられるように、まさにN J Cが目指す社会

そのものであると確信いたします。

この章では、山形 J C 「2000年代新運動指針」を基に、「温故知新」という基本姿勢で検証した過去のまちづくり事例、さらに新山形創造エンジンとしての「質・実・剛・健」を取り入れて、私たちがのちに迎える10年後の2010年に向かって「アクティブバランス都市山形」を実現するため何をなすべきか、より具体的で総合的な提案をいたします。

地域社会・まちづくりにおける21世紀の提案

～地域主権、市民主導型の、成熟したまち

「アクティブバランス都市山形」～

- ユニヴァーサルデザインのまち山形を目指して
～障害者・高齢者との交流・共動活動～
- 子どもたちの健やかさと豊かな感性・創造性を育む事業の展開
～未来への夢と勇気を与える運動～
- 30万都市山形に向けて
～広域合併を目指した具体的な合同運動の取組み～
- New ヒューマンネットワークの構築
～NPO 団体との新しい連携、人と人とのソフトのネットワーク～
- コミュニティの活性化
～エコマネーの研究及び導入の検討～
～祭りを通した新しいまちづくり運動の実践～
～中心市街地活性化官民合同プロジェクトチームの旗揚げ～

国際化・地球益における21世紀の提案

～地球市民としての行動とともに、地球の元気を取りもどす～

- 国際マインドシティ・YAMAGATA の実現
～地球市民としてグローバルな感性を育てる地域国際交流事業の展開～
- 地球環境を考えた地域環境のあるべき姿の創造
～ゼロエミッション等、持続可能な循環型社会の構築～

山形ＪＣにおける21世紀の提案
～進化する誇りあるLOM～

- 事業継続を考えた戦略的LOM運動の展開
- 市民に開かれたＪＣを目指す ～公開例会や市民との座談会の実施～
- 社会起業家育成・人間力開発プログラムの開催

第5章 エピローグ

～ Nothing Best but Anything Better

「ベストを尽くす」という言葉があります。そのとき持てる力を全て出しきる事です。また、比較対照物のなかで最も優れた「ベスト」も存在します。

しかし、人間の能力も本人の努力で向上し、比較対照物も時と人類の英知により、さらに良いものが出てくる事は想像に難くないことです。

つまり、その時々「ベスト」ものちに「ベター」になり、さらに良いものは私たちの気持ちと努力次第で必ず出てくるものと思います。

また、全ての人が納得し賛成するものもないのではないのでしょうか。ただ、一人でも多くの人が納得し、賛同できるものは無限に存在するように思えます。

これでいいという完璧なものは思想や概念を除き、いえ含めても、世の中に存在しないと思われまふ。

まちづくりを始め、私たち山形ＪＣの活動も今以上により良いものを求めて、これからもアクションを起こします。

私たち山形ＪＣは創立46周年たる本年、半世紀近い資産をもとに「山形ＪＣアクション21」をもって21世紀をスタートします。これは、「アクティブバランス都市山形」の実現に向けて今後10年間何をなすべきかを示し同時に、21世紀の山形に向けた私たちの誓いに他なりません。市民一人ひとりと共に行動し、新しい山形の現形を作り上げます。限られた時間の中で、限りない明日の為に理想と情熱を燃やし続けます。

「新世紀山形の創造はわれわれ山形ＪＣの使命である」という気概を持って。